

# 富山市科学博物館展示更新計画検討委員会 第4回会議 議事概要

日 時 令和6年1月30日(火)  
 午前10時～11時20分  
 場 所 富山市科学博物館  
 多目的学習室



## 1 出席委員及び事務局職員

### (1)委員

|      | 氏名    | 役職                                | 区分         |
|------|-------|-----------------------------------|------------|
| 委員長  | 青木 一真 | 富山大学学術研究部理学系 教授                   | 学識経験者(博物館) |
| 副委員長 | 布村 昇  | 金沢大学環日本海域環境研究センター<br>海洋環境領域 連携研究員 | 学識経験者(博物館) |
| 委員   | 齋藤 吉彦 | 元大阪市立科学館 館長                       | 学識経験者(博物館) |
| 委員   | 佐野 晋一 | 富山大学学術研究部都市デザイン学系 教授              | 学識経験者(博物館) |
| 委員   | 田中 斉  | 富山県市長会 事務局長                       | 学識経験者(行政)  |
| 委員   | 牧野 弥一 | 富山市科学博物館友の会 会長                    | 利用者代表者     |

※全員が出席

### (2)事務局

| 所属    | 役職         | 氏名     |
|-------|------------|--------|
| 科学博物館 | 館長         | 水高 清志  |
| 学芸課   | 課長         | 林 忠史   |
| //    | 主幹学芸員      | 坂井 奈緒子 |
| //    | 主幹学芸員・課長代理 | 藤田 将人  |
| //    | 主幹学芸員      | 市川 真史  |
| //    | 主査学芸員      | 増淵 佳子  |
| 総務課   | 参事・課長      | 高田 まどか |
| //    | 主幹・課長代理    | 平川 元法  |

## 2 次 第

### (1) 開 会

### (2) 科学博物館長あいさつ

### (3) 報告事項

①科学博物館展示更新計画(案)に関するご意見と市教育委員会の考え方について

### (4) 議 題

①科学博物館展示更新計画(案)について

### (5)閉 会

## 1 開会

事務局により開会

## 2 科学博物館長あいさつ

本日は、委員の皆様にはご多忙のところ、富山市科学博物館展示更新計画検討委員会の第4回会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

先般の令和6年能登半島地震では、石川県能登地域や県西部の氷見市などにおいて、甚大な被害が発生したところであります。本市においても地震による揺れと津波警報により、避難所には多くの方が一時避難するなど市民生活に大きな影響を及ぼしたところでございます。市民の皆さんには、身近で起こったこの震災に衝撃を受けられたことと思います。当館といたしましては、地震をはじめとする自然災害の発生メカニズムなどに関する理解が深まるよう、今後一層力を入れて取り組まなければならないものと認識を新たにしたところでございます。

さて、展示更新計画書の案について、12月20日から1月5日にかけてパブリックコメントを実施したところ、市民の皆様から多くのご意見を頂戴しまして、当館の常設展示、天体観察機能のあり方への関心の高さを改めて感じ取ったところでございます。

本日の会議では、パブリックコメントで寄せられましたご意見への市教育委員会の考え方をご報告いたしますとともに、計画書案について、前回会議からの変更・追加した点を中心にご説明し、委員の皆様からご意見をいただきたいと考えているところでございます。

委員の皆様から頂いたご意見を参考とさせていただき、市教育委員会として最終的な計画書に取りまとめていくこととしております。本日が最後の会議となりますが、委員の皆様には、これまで同様、忌憚のないご意見を頂きますようお願いいたします。それでは、よろしくお願いいたします。

## 3 報告事項

事務局より、「科学博物館展示更新計画(案)に関するご意見と市教育委員会の考え方について」説明

#### 4 議題(発言内容を整理して記載しています。)

委員長により議事進行

##### 委員長

本年も一ヶ月が経とうとしております。改めまして本年もよろしくお願いいたします。

館長からのあいさつにもありましたが、今年の初めから地震や航空機事故に翻弄されているような気がしています。私は富山にいなかったため経験していませんが、結構揺れたということで、当館にもかなりの被害があったのではないかと心配していましたが、ほとんど被害がなかったということは、日頃から職員の方が、防災の計画や安全対策をされている賜物だと思っております。私は日頃から「災害が少ない県ではない」と専門家として言っていますが、そういったことを含めて、今回の展示計画に盛り込んでいただければと思います。

それでは、次第4の議題に移りたいと思います。科学博物館展示更新計画(案)について、事務局から説明をお願いします。

##### 事務局

「科学博物館展示更新計画(案)について説明」

##### 委員長

展示更新計画(案)と、パブコメについてもご意見・ご質問等を受けたいと思います。

##### 副委員長

委員長と館長のご挨拶でもありましたように、地震のことは非常に大きなウエイトを占めるようになっていきます。少し前までは、富山には雪は降るが、地震も台風も来ない良いところだと根強く伝わってきておりました。

地震についての啓発は当館も行っているが、いろいろなものを取り上げるために一つ一つの展示が小さくなってしまい、地震はこんなに大きいんだということは見せていなかった。今後、そのような考えを打ち破るためには、展示のウエイトを考えていかなければならない。地震については、いろいろな防災関係の組織で取り上げられており、特に立山カルデラ砂防博物館では大きく取り扱っているため、そちらとのすみ分けも考えていかなければいけない。

また、海洋の展示についても、海底地滑りという話もありましたし、海底のベニズワイガニやバイガイなどがどうなっているか分からない面があるが、今後明らかになる調査の結果や研究成果がフレキシブルな形で反映できるとよいと思います。

地震の他にも、地滑りや洪水、クマの異常出没といった問題があり、これについても、この館でできる展示の仕方を考える余地があると思います。

##### 委員長

当館は、どちらかといえば自然史博物館で、科学館的なものもありますが、自然史博物館で凝集したということなので計画されていると思います。防災に関しては、四季防災館で地震の体験もできるため、他館とのすみ分けの整理をしていただければと思います。

#### 事務局

災害に関して、特に今は地震に関して、市民の皆さんの関心が高まっているため、そういったところをしっかりと伝えていくことは重要だと思います。しかし、展示面積や場所が限られておりますので、委員長が言われましたように、四季防災館では防災関係の体験型コーナーがあり、そういったところは任せる、また、そこも体験しに行ってほしいというような案内をすることで、当館がなすべき役割を考えまして、地滑りや洪水などの災害についても伝えていくように努力したいと思います。

#### 委員

富山市民にとって、身近に大きな地震が起きました。今言われたように、これまでは地震がなかったため、多く取り上げられていません。15年の展示計画が続いていく中ではいろいろなことが起こり得るため、そういうことが起こったらすぐに取り上げることができるコーナーを作っておいて、そこで随時取り上げていく形にして、さらに詳しいことについては他館で知っていただけるようにしたらよいのではないかと思います。

#### 委員長

早速、館の入口に地震の情報を載せていただいております、積極的に展示していただければと思う。

#### 委員

規模も小さいものではなく、ある程度のコーナーとしてあってもよいと思う。同時に、すみ分けというより連携という形で行っていただきたい。例えば、防災では四季防災館、植物であれば当館も詳しく展示していますが、中央植物園もありますよというようなこと。資料の33ページに深海をさぐるというような形で書いてありますが、氷見に栽培漁業センターがある。地震の被害が出ていないか心配だが、富山湾の水深に応じてこういう魚が揚がる、ホタルイカはこうだと分かるような、子どもが面白く遊べる装置がある。科学博物館ですべて踏み込むことはできないため、海のことは氷見の栽培漁業センターに行ってみてくださいといった連携をする形でやっていただければよいと思いました。立山カルデラ砂防博物館や氷見市海浜植物園もあり、そういうところを紹介するような機能を持たせたらよいのではないかと思います。

#### 事務局

おっしゃるとおり全部を網羅することは難しいため、他館に行くことでより詳しく学んでもらえるような糸口を持つというところで、2007年にこの展示を作った当初から、他館の紹介マークは展示室にあります。当時と比べると関連する施設が増えているため、それらも紹介するような形にしたいと思います。

何か起こったらすぐということ、今は地震について展示しておりますが、学芸員がタイムリーな話題を出せるようにする。SLIM が月に着陸したことも話題になっていますが、そのパネルも作っており、展示する準備ができております。そういったように、いつ来ても新しい話題があるというような形にしていきたいと思います。

#### 委員

学芸員の皆さんの意気込み、心意気が書き込まれていて、非常に素晴らしいと思っています。基本計

画案が出来て、次は設計に移っていく段階で、これからますます大変になっていくと思うが、私自身が大きな展示改装を経験した中で、失敗したことを3つ皆さんに共有させていただき、さらによいものにしていただきたいと思います。

一つは、一生懸命に作って、計画も立てて設計をして、これはいけるぞと思っていたら、空振りで、誰も見てくれないものになったことです。いろいろな人から意見をいただいたが、学芸落ちでした。学芸落ちというのは楽屋落ちのことで、学芸員の中だけで盛り上がり、お客さんの心が分かっていないことです。学芸員は理科が好きで、ずっとその世界で生きてきた人だが、お客さんは全然違う。自分が楽しいからお客さんも楽しいと思いつくのではなく、お客さんは何が好きなのかということを理解した上で設計しなければいけないと思います。学芸員の思いが非常に強くて、普通のお客さんが興味を持っていないようなことを見せたいと思うのであれば、どうやってそこへ引き込んでいくかということ、よく考えなければいけない。あとは、映像。映像はストーリーがあって、それを最初から最後まで視聴しなければならない。それに興味を持ってきた人は見るが、最後まで視聴する人はほとんどいない。よく言われているのは、博物館は散歩道。散歩に来て何かいいものはないかなと思って見ているので、そういう人をグッと自分の思いへ惹きつけることが大事です。

二つめは、本物が大事であること。本物の場合は、その本物に対してお客さん自身がどう感じるか、お客さんがいろいろな見方をする、その心を大事に作っていく。これは難しいことで、我々もなかなかできないが、そういうことが大事です。それから、作ったものを変えていけるような設計をしないと固定化してしまう。パネルがあってケースがあって何度でも変えられるというのが基本で、それを補完するために少し映像を付ける。映像を主にすると学芸落ちすると思います。

もう一つは、理念が先行していることです。資料が稀薄なのにすごい展示をしようとするとう映像になってしまう。それは誰も見ない。やはり資料を集めないといけません。資料で圧倒して映像とかで補完するというのが、理想ではないかと思っています。

#### 委員長

私は学芸員の方には、学芸員が楽しむことが大事と言っていますが、お客さんとの乖離があり、自己満足で終わってしまうとよくないため、そこはきちんとしていただければと思います。世界中を飛び回っていろいろな博物館を見ていますが、また行きたい博物館と、二度と行きたくない博物館があり、やはりまた行きたいと思う博物館になっていただければと思います。

#### 事務局

文章を書いていて難しい用語を使っていたり、小学生向けの文章のはずが、小学生が読めないような漢字を使っていたりと、油断するとそうなることもあります。常にお客さん目線で、何のために展示があるのかを忘れないようにしたいと思います。

#### 委員

地震の話ですが、私は地元の町内会で去年、防災対策等の検討をしていたのですが、先ほどの話にあるように富山の人は災害とは無縁だという認識でした。そのため、組織を作ろうと思っても知識がなく、まずは啓発のために町内会で今動いています。ここは科学博物館だが、行政の一端でもあり、大きくスペースを割く必要はないが、少しでも市民に啓発を促すようなものがあればよいと思います。

もう一つは、パブリックコメントの2番目で、高低差や、河川がいかに急勾配かが感じられるとよいといった意見があり、市教育委員会の考え方は、「富山の地形を立体的に理解できるように、急流河川などの自然の姿を分かりやすく伝えてまいりたい」としています。災害は地震だけではなく、最近は特に日本中のいろいろなところで水害が起きている。神通川や常願寺川は急流河川で、富山は昔から水害被害があった。今は砂防ダム等が出来て、目立った被害はないが、いつなんどきでも可能性はあるところ です。現在の常願寺川や神通川を見ても意識をしないと思いますが、ものすごい大雨や線状降水帯が来た場合は、一気に堤防決壊、もしくは、そこに流れ込んでいる河川から溢れることも多いにあり得る。平成16年10月には、神通川が氾濫しそうになったこともあり、住民には富山の地形からしても、そういう水害もあり得るということも含めて、丁寧に説明する、啓発する必要があるのではないかと考えています。

能登半島地震の時にも津波の情報があり、多くの方が高いところに逃げたが、富山市のハザードマップでは津波の浸水範囲は海岸沿いのごくごく一部です。今のハザードマップではほとんどの住民は関係ないが、多くの方が避難した。つまり、誰もハザードマップを見てないということ。各家庭に配られているはずなのに誰も見てない。そのため、行政とすればいろいろな機会を捉えて、富山の地形からしても災害はあり得ますということを盛り込んでいただきたいと思います。

#### 委員長

私も学生には常日頃から、地震や災害は起こるということを伝えていきます。実際に経験しないと分からないところもあるが、科学博物館で災害の啓発に協力していかなくてはいけない。皆さんで防災意識を高めただけであればと思う。

#### 委員

やはり地震のことですが、科学博物館で一度自然調査のようなことを行いました。市民が参加できるような形で、今回の震災について聞いてみるだけで何かは見えてくる。例えば、富山市内でも、松川辺りは大変な状態である一方、市南部は大きな被害はない。でも、海の方へ行くと大変なことになっているということを聞かせてもらう。そういった簡単な方法でできることを、いろいろな機会にトライしていただきたい。19ページに、「自然の現象にひそむ法則性を」という言葉を入れたと事務局が言われたが、こういうところでは、地震被害が多いというように強調できるとよいと思います。

#### 委員長

津波については富山市民でも海の近くと山側では温度差があるかもしれない。

#### 委員

先程から、すみ分けやきっかけや入口を作るという話が出ており、ここでは皆さんに紹介したいようなトピックが多くあるため、その素材を活かした入口作りをもっとアピールをしていくとよいのではないかと考えました。例えば、私は、流されたカニ籠があったのは水深800m だと知らなかった。そういった話は、科学博物館 2 階の展示をきちんと見ていれば分かるはずで、例えば、能登で5m 隆起している所は、潮間帯の生物がそのまま陸で見えている。そういうことも、展示を見れば分かる。このように関連した展示を多く持っていることが入口で、興味を持っている時をチャンスと捉えてアピールすることがよいのではないかと考えます。

そう考えていくと、常設展に活かしていくのはもちろんだが、トピックを紹介する場所を常設にすることもあり得るのではないかと思います。今後、展示更新が始まり、閉鎖される時期もあると思います。2階が一部閉鎖する時期に新しいものがアピールできる場所、サイエンス・ラボにミニ企画展という表現もありますが、どこかにそういった新しいトピックを紹介する場所があれば、見に行きやすくなる、展示をしやすくなるのではないかと思います。常設展の一部が今後閉鎖されることがあるわけで、その内容をそのトピックス展で紹介することもできると思う。そのため、トピックを紹介する場所を準備して、それを常設展にも活かしていけるような場所があるといいのではないかと考えています。

#### 委員長

それは非常に重要ですし、毎回言い続けていますが、入口にも実験ラボのような形で機動的に発信していただきたい。もちろん奥の教室も作ったらよいと思いますが、入口のところに小さなラボ、プラスそういう情報発信ができる場所ができればと個人的には思っている。予算も限られており強くは言えませんが、やはり入口は大切であるためよろしくお願いします。

#### 委員

現在の科学技術ということであると、科学博物館への市民の関心は高いと思います。先ほどの SLIM の話や、来月、科学博物館でスーパーカミオカンデや KAGRA についてのプラネタリウム講演会があります。天文に関する科学技術、あるいは素粒子、パブリックコメントの意見に「霧箱」ということもありました。北陸電力のワンダーラボがなくなりました。私は、県には中央科学博物館というようなものがあって、さらに細かいものがあればよいと思いますが、残念ながら富山県にはありません。そうすると、受け皿として富山市科学博物館がそれを担っている。担っていると言いながら、これ以上は空間的にできないため、先ほど言われたトピック的なところで取り上げてもらえばよいと思います。

もう一つは宇宙への関心は高く、毎週土曜日に観望会を行っておられますが、多くの参加者がいると思います。このパブリックコメントの中に、天文観測施設はいらぬという意見も書いてありましたが、三熊にあった天文台のようなすごいものを作ろうとする計画ではなく、これは天文学的な専門の関係者から言うと、貧相なものを作るに過ぎないということ。ただし、性能では、電視観望などの機能を使えるということで、これは是非設置してほしいと思います。パブコメの半分が天文の細かい機能などについて書かれており、関心は強いと思います。少なくともプラネタリウムと連携できる現在の計画は、このとおり進めてもらえばよいと思います。この全体の計画案は、私から見てもうまくまとめられていて、大変よいと思いました。

もう一つだけ言いますと、分からない言葉として、XR にコメントをつけていただきたい。

#### 事務局

XR につきましては、パブリックコメントのご意見 7 番で出ていたかと思います。この XR というのは、AR、VR、MR を全部合わせた総称で、用語が分かりづらくて申し訳ございません。検討いたします。

#### 委員長

パブコメの半分が天文への意見ということで、市民も興味があるということだと思います。これは館へのお願いになりますが、科学博物館の目の前で天体観察室を作る意義として、まずは、多くの方に星を

見てもらう。もちろん、プラネタリウムで勉強していただいて、実際の星空を見てもらう。予算の問題もあり、そんなにすごい天体観察室ではないですが、実物を見せるということで学芸員とお客さんとの乖離がないように、特に子どもたちにどう星を見せて、サイエンスに興味を持ってもらえるかというところを工夫していただくと、もっとよい感じになるのではないかと思います。

これから実際に作っていかなくてはならないため、さらに大変だと思います。よろしくをお願いします。

#### 委員

41ページにある水力発電機の内容・展示物のところで、水力発電機の背景パネルを発電機が設置されていた朝日町笹川の景観写真に更新するという文章がありますが、なぜ朝日町なのか。小水力発電は富山市にもある。常西公園小水力発電や東新町公民館小水力発電など、富山市は小水力発電に力を入れていて、バリ島まで行って小水力発電の普及に貢献している。それくらい富山市は小水力発電に先進的にもかかわらず、なぜ朝日町の写真を展示されるのか。

#### 事務局

展示してある発電機が設置されていたのが朝日町笹川であるという理由からです。今は、水力発電とはどういったものかを説明する展示パネルになっていますが、富山市の取り組みなり、小水力発電の考え方をしっかり伝えられるようにパネルについては検討したいと思います。

#### 委員

富山市にはなくて、県内にあるものを展示するのであればそれでよい。しかし、富山市は小水力発電にすごく力を入れているのに、そのデータを使わずにということはいかがなものかと思ったところです。

#### 事務局

富山市の小水力発電について、実際に見に行ったり、担当課にお聞きしたりして、調べさせていただいたところで、今回の展示更新では、小水力発電の紹介を AR コンテンツに入れることを考えております。小水力発電については、富山市、富山県の地形と合わせて、非常に小水力発電がしやすい県であることを、1階展示室での急流や扇状地を説明する中でも解説を入れたいという思いがあります。そのため、展示全体をとおしたつながりもあり、水力発電機についてはその当時の笹川の歴史的な価値を持たせた展示を考えたいと思っています。富山市の最新の小水力発電は街よりにあり、山の中の笹川とのギャップも、面白いのではないかと考えております。

#### 委員長

学芸員の思いと、お客さんの思いがつながるようにしていただけたらよい。今回は6期に分かれて更新するため、後の工事については検討をしながらやっていただければと思います。ただ、富山市が頑張っているのであれば、見せ方を検討して紹介するとよいと思う。

#### 委員

水力発電機を実物で見て、これは非常によいものを持っていると思いました。日本の博物館で持っているところはなく、この実物自体に非常に価値があるため、ぜひ活かしてもらいたいと思います。私とし



ては、水力発電といえば黒四ダムで、黒四と比べれば面白いと思った。見ているお客さんが、何に興味を持って、どこまでお客さんの心に訴えられるかということも、これから考えていかれたらよいのではないか。ハンズオンのところで人力発電などをやって、発電量の違いなどを黒四と比較したら面白い。これから5年先までに、いろいろ資料を集めていただけたらと思います。

#### 委員

大久保の塩にある水力発電所は富山県で最初の発電所ではないかと思う。

#### 副委員長

1979年頃に科学文化センターに理工展示室を作りたいということで、2年間で展示物を準備しなくてはいけないという非常に困った状況の時に、当時電気というものが国民の中で使われてきて、すべては電気エネルギーになっているというテーマの一環として、笹川にあった発電所から、無理を言って橋を作り持ってきたものです。笹川から持ってきたということだけは残しておけばよいと思う。構造的にも容易に動かせない構造になっている。展示として大事なことは水力発電の原理であり、位置エネルギーを利用して電気を起こしている、エネルギーとして使える可能性があるという考えで、展示していただけたらよいと思います。

#### 委員

22ページを見ますと、更新時期、例えば工期が10ヶ月で、内4ヶ月が閉鎖期間と明記されており、それがどんな計画なのかを確認させていただきたい。また、23ページで、ドーム型観察室を作る場所が明記されているように見える。そこに思いがあるのであれば聞いておきたい。

#### 事務局

まず、22ページの工期、うち何ヶ月が閉鎖期間と書いてありますが、今のところの予定として記載しております。実際は、少し前後することもあるかと思いますが、この程度かかることを想定して計画を作りましたということで記載しております。実際に設計してみるとズレが出る可能性もありますが、期ごとに単年度で進めていく予定です。

また、23ページの観察室の場所につきましては、紫色の四角の場所に作るように見えるということですが、こちらの意図としては、この大きい紫色の丸のどこかに整備するということとして、これは書き方について検討させていただきます。

#### 委員長

勘違いが起こるので、丸の真ん中に文字を置けばよいのではないか。

#### 委員

工期の10ヶ月というのは、準備に2ヶ月かかって、6月ぐらいにスタートするようなイメージでよいですか。予算の関係ですか。

#### 事務局

予算の関係で、単年度で、入札して、契約して、業者が決まってという考え方です。

#### 委員長

前から言っていますが、期数にとらわれずに作っていただきたいという思いはあります。

#### 委員

基本計画はできたが、柔軟に変更して行かれたらよいのではないかと思います。設計など、これから詰めていく過程で課題がクリアできないものがあれば諦める。諦めてサラにするという大胆なことも考えたらよいと思います。諦めたら次にもものすごくよいものが出てくる。諦めずにできないものをいつまでも頑張っていると、ものすごく損もします。資料が集まらずに、映像ばかりになるような常設展であれば、それはもうやめようかなというように、柔軟にいかれたらよいのではないかと思います。

#### 委員長

計画通りにいかなかったからダメだということではなく、柔軟に更新をしていただきたい。

また、展示更新というと古いものを新しくするイメージだと思うが、もちろん古いものを新しくすることも重要ですが、新しいサイエンス、今回の地震もそうですが、新しいものを市民に発信していくことが、展示更新の重要な部分だと思います。

#### 事務局

貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。初めの方で地震の話も出ていましたが、外的な要因もありますし、必要に応じて中身を見直すということはあると思っております。ただ、今のところはこの計画で進めていく方向であります。当然、ご意見をいただいたとおり、できないこと、さらに他の部分でこのようなものを入れたらいいのではないかとということが、将来的に発生する可能性もあり、そのあたりは今後また考えていきたいと思っております。

#### 委員長

特に天体観察室は死守していただければと思います。私が思っているのは、規模は小さいですが、子ども達に天体観測ができる施設を早く作っていただいて、やはり必要だということで星のきれいなところにさらに作るようなことも大切だと思う。これが終わりではなく、ここから派生していく、やはり富山市には大きな天文台が必要だとか、もっと大きな科学博物館が必要だというような、次に繋がるようなステップになっていけばと思っております。

#### 委員

少し危惧しているところは、こういう機会に天体観察室を整備しようという意気込みは立派だと思うが、それを作ったら運営する人員がどうしても必要になってくる。やはり、人をどうするかということも考えていかなければいけない。この館の学芸員の皆さんは、就職されたら定年までここに勤める。ずっとここにいる学芸員がどんどんスキルアップして、素晴らしいプラネタリアンに成長していくべきですが、雑務で必要なことができなくなる。そういうことのないように、頑張っていていただきたい。プラネタリウムの学芸員が天体観察室を活用するという意気込みはよいが、意気込みだけでは上手いいかない。そういうと

ころは注意していただきたいと思います。

#### 委員

運用の面ですが、学芸員は今も一生懸命やっておられる。そこで、ボランティアの方に応援していただく。現に星空観察会は富山県天文学会、いわゆるボランティア団体に協力していただいている。展示説明は学芸員だけではなく、市民の方もできるようなものになればよいと思います。高齢者もボランティアをしてくれる方が結構出てくるのではないかと思うため、そういった運用も考えていただければと思います。

#### 委員長

天文学会や友の会、高校生や大学生、そういう若い人たちを巻き込んで、よいものを作っていただければと思います。

#### 事務局

貴重なご意見を多くいただきありがとうございます。地に足をつけたような計画を考えていかなければという部分があります。それから、ボランティアの方、友の会の皆さんにご協力をいただきながら、運営の方も進めていきたいと考えています。

#### 委員長

それでは、ご意見が出尽くしたようですので、これにて議事を終了したいと思います。今回は最後の会議となりますが、議事とは別にご意見、その他で何かございますでしょうか。

#### 事務局

事務局といたしまして、委員の皆様には4回に渡る会議におきまして、多くのご意見をいただき、誠にありがとうございました。皆様のご協力のおかげで、この展示更新計画は策定に向けて進んでおります。2月には計画を公表する予定でございます。実際に展示更新が始まりましたら、展示の製作などにあたりまして、学芸員がお知恵を借りる、尋ねさせていただくことがあるかと思っております。展示更新計画の策定に関わっていただきましたことを感謝申し上げますとともに、今後ともご協力いただけましたら、ありがたく思います。どうぞよろしく願いいたします。

#### 委員長

それでは、この後は教育委員会に展示方針計画の策定を進めてもらいたいと思います。

委員の皆様におかれては多くのご意見いただくとともに、円滑な議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。

## 5 閉会

事務局により閉会